

消費税は下がる？

神戸市立垂水中学校3年 梶村 日菜子

「消費税を下げる。」

今回の参議院選挙でよく聞いたフレーズだ。参議院選挙の各政党の公約をきいて、ほとんどの政党が消費税の引き下げや廃止を主張していた。消費税は数ある税の中でも国民の生活に直結する税金だからだ。消費税の使用用途は何なのか。消費税を下げるメリットやデメリットは何なのか。そもそも消費税を下げても財政に問題はないのだろうか。

消費税はもともとオイル・ショックの影響で、日本の経済状況が悪くなり、厳しい財政事情を改善するため、所得・消費・資産等にバランスのとれた税体系を構築するために導入された。

私は消費税を払うことに抵抗がなく、それが普通で当たり前のことだ。ずっと昔からあるものだと思っていた。だが、私の母が子どもの時代には消費税がなかったと聞き驚いた。百円の物が百円で買えていた昔を羨ましく感じた。平成元年に導入された消費税はその後三度改定されているが、日本は他国と比べると消費税率が低いほうだ。平均以下である。だが、消費税が高い国はその高い消費税の代わりに医療費や介護費、教育費の無料などと日本と比べ社会保障が充実しているようだ。私は消費税が高くても、安心して暮らせるよう社会保障が充実していれば良いのではないかと思った。

財務省の発表によると消費税の軽減税率含め一律5%にすると十五兆円規模の減収になるそうだ。十五兆円という金額は私には想像すらつかないものであるが、今、日本は高齢化社会だ。消費税を減らすと家計の負担が軽減されたり、景気の回復効果などのメリットもあるだろう。だが、一時的に消費税を廃止しても、また日本の経済が悪化したときに、一度引き下げたものを上げるとなると、さらに景気や生活に負担がかかることではないか。現在、最も安定した財源の一つである消費税を引き下げるよりも今後の社会生活を考えたい。これから日本はどんどん高齢化社会が加速していくだろう。私が大人になってからも医療や介護などの社会保障が持続することが重要だ。そのため、私は消費税の維持が必要だと考える。

今回、この税の作文を通して考えたことは二つだ。

一つは税について調べたことを生かして、十八歳で有権者になったとき、どの政党が税についてどんな対応をするのかに注目して政党を選ぶのか決めるようにしたいということだ。

もう一つは、消費税は国民が平等に払う税金だ。税の中でも公平性が高い。そのため、税金の使い方にも、私たち国民が納得するような公平性を求めていきたいということだ。

これからも税について考え方、私も国民の一人として、よりよい社会が持続するようにしていきたい。